

**第70回大分県畜産共進会  
審査報告書**

**社団法人 大分県畜産協会**

## 第70回大分県畜産共進会 (肉牛の部 審査講評)

第70回大分県畜産共進会、肉牛の部が皆様のご協力により無事終了し、ここに審査の結果をご報告できますことを、審査委員を代表して心からお礼を申し上げます。

今回の出品頭数は、黒毛和種去勢牛40頭、交雑種去勢牛10頭の計50頭でありましたが、体重不足のため、黒毛和種・交雑種 各1頭審査対象外となり、計48頭でした。

枝肉の審査につきましては、(社)日本食肉格付協会の牛枝肉取引規格を基準として行いました。

まず、黒毛和種去勢牛であります。出品牛の月齢は26ヶ月～30ヶ月で、平均28.7ヶ月と昨年とほぼ同様でした。種雄牛別では隆茂38が11頭、寿恵福9頭、藤平茂9頭、糸藤3頭、八重福栄3頭、その他4頭となっております。

枝肉重量では最大547.9Kg、最小407.8Kgで平均488.3Kgと昨年と比較し枝肉重量は8.2Kg減少いたしました。

次に枝肉の格付け状況ですが、歩留等級につきましては、A等級30頭(77%)、B等級以下9頭(23%)でした。肉質等級では、5等級5頭(13%)、4等級23頭(59%)、3等級以下11頭(28%)で4・5率は72%でした。

肉質につきましては、脂肪交雑(BMS No)が、3～10で、平均5.9、ロース芯面積は最大69cm<sup>2</sup>、最小43cm<sup>2</sup>、平均54.2cm<sup>2</sup>、皮下脂肪の厚さは、最大5.2cm、最小1.5cm、平均3.1cmでありました。

これらの成績は、前年と比べ4・5率は8%上昇し、ロース芯面積も2平方cm大きくなりましたが、皮下脂肪厚やBMS Noは前年とほぼ同様の成績でした。

また、今回は、特に光沢やしまり等、肉質の面で課題のあるものが多く、皮下脂肪の厚いことと併せ、今後の改善が望まれるところです。

次に、2区の交雑種去勢牛9頭の結果ですが、出品月齢は24.2～28.9ヶ月齢で平均26.5ヶ月と、昨年と比べて0.2ヶ月長くなっていました。

枝肉重量は518.3Kgで前回に比べ大きくなっています。

格付け状況ですが、歩留等級につきましてはB等級7頭、C等級2頭となっております。肉質等級では、4等級1頭、3等級4頭、2等級4頭でした。

前年に比べ枝肉重量は増加したものの、3等級以上の率及びBMS Noは低下しておりますので、今後とも引き続き一層の飼養管理技術の向上に努めていただきたいと思います。

## 2 肉用牛の部（平成21年10月24日）

出品者の皆様に敬意を表する。

全体的な所見は次のとおりである。

出品牛の栄養度は、大きさの条件はあるものの3区から5区の出品牛で全体的に脂肪の附着があり、栄養度7と判定されたものは体型的に良くても優良賞となり厳しい状況であった。脂肪の附着は肋骨、臀部の部位が大きく判定7に近くなるものが多く、出品技術に課題を残したと思われる。全共も含め栄養度7以上は序列を下げるが、尾根部及び臀部の脂肪は育成時につけるとなかなか落ちないので、育成時の飼養管理に注意してもらいたい。

発育は概ね適正で、2シグマを超える牛は少なかった。全体的に体積のある発育の良い牛及び体伸、後軀が充実した牛が多く見られた。繁殖性と関係の深い品位も、全体としては優れたものが多かった。均称は、体伸と中軀は良いものの深みに乏しいもの、長脚に見えるものが散見された。

惜しい点は、①毛質は、良いものと若干毛の粗いものが見られらつたこと ②体深は、あるものの足りないものがありらつたこと ③資質は、品位は良いものの全体的に皮膚のゆとりがほしかったこと ④肢蹄は、後肢の力強さに欠ける牛が散見されたことである。

長崎全共に向け、繁殖性の向上が課題となっている。分娩間隔の全国平均は416日であるが、全国和牛登録協会としては全共に向けて分娩間隔を400日以内にするテーマを掲げ取り組んでいるところであり、外貌所見で肩付き、体上線、資質、品位の良いものが分娩間隔が短くなる傾向にあると考えている。過去の大分の牛は肩付きが悪かったが、今回は改善されたと思われた。

今回の群出品牛は、前回全共の大分県からの群出品牛と比べると3頭揃えるのが難しい状況にあると思われた。牛群全体のレベルはやや寂しい状況で、母・子・孫3代となると収益に結びつく交配をすると体型上の問題が残るため、今後体型を改良する選抜を願いたい。全共の産地競争は群出品が中心となる。群出品牛の確保は、事前準備を行わないと揃えるのは大変と思われる。長崎全共の改良目標は種牛の効果（分娩間隔短縮）であるため、種牛性（肩、腰）の良い牛を選抜してほしい。

## 平成21年度 乳用牛の部

今回の出品は、第1部育成牛15頭、第2部育成牛11頭、第3部初妊牛15頭、第4部経産牛（3歳未満）8頭、第5部経産牛（3歳以上）17頭の合計66頭の出品であり、ホルスタイン種雌牛審査標準（平成19年4月1日改正）に基づいて厳正な審査を行いました。

なお改正後の審査標準は、「体貌と骨格」、「肢蹄」、「乳用牛強健性」、「乳器」の4つに区分されています。「体貌と骨格」については体貌は体の姿形、骨格は骨格構造を意味し品種の大きさとそれに合った体躯の充実、体各部の移行とつりあい、骨格構造の良否や強さ、尻の構造を評価し配点は25点です。「肢蹄」は長命性に関連深い形質であることから四肢の強さや特に後肢の形状をみるとともに蹄を重視したもので配点は20点です。「乳用牛強健性」は「乳用牛の特質」に加えて乳用性の強さを求め健康で活力に満ち肋がよく開帳しているかを評価し、配点は15点となっています。「乳器」は配点40点ですが前乳房の比重が増えています。

第1部については、12ヶ月令～15ヶ月令未満の育成の出品であり、総体的に資質・品位に富み、質が高く品位・パワーを感じさせるものが多く出品されていました。特に上位になった出品牛については、発育が良く前躯の強さ、肋の開帳度・流れに優れ、トップラインが整いバランスが良く、月齢に応じた力強さを感じさせ、将来性を伺わせる出品牛が多く見られました。ただ発育の劣る、あるいは後肢の弱い出品牛も数点、見受けられました。

第2部については、15ヶ月令～18ヶ月令未満の育成の出品であり、総体的に品位に富み、特に上位の出品牛については尻の形状、トップラインと移行の強さ、体の伸張性、肋の幅・流れ、飛節の角度がよくバランスが整っていて、乳用性と資質の優れたものが多く見られ、レベルの高さを感じられました。下位の出品牛については体の深さ、胸の幅に惜しい点が見受けられました。

第3部については、18ヶ月令～25ヶ月令未満のすでに種付を終了した初妊牛の出品であり、全体としてフレームが強くスケールが大きく、前躯の充実・肢蹄の踏みに優れトップラインも良く、特に容積、幅、角度、強健性に優れたものが多く見られました。しかしながら尻の角度をみたときに座骨がやや高めのもの、後躯の強さ、肢蹄の踏み、歩様、飛節の鮮明さ等に欠けるものもあり、将来的な機能性を考えたときに残念と思われるものも見受けられました。

第4部は初産から3産未満の経産牛の出品で、鋭角性に優れ乳用性に富むものが多く見られ、特に上位の出品牛は全体のフレーム、肢蹄の強さはすばらしく、前乳房の付着の強さ・長さ・高さが十分で乳頭配置もよく乳用性に富んでいましたが、第3部と同じく座骨の位置関係、尻の高さに惜しい点が見受けられました。

第5部は3産以上の経産牛の出品で、総体的にフレームが大きくてしっかりしていて体全体の充実度がよく体全体の輪郭、足が鮮明で、また乳房の底面、幅が大きく乳房の質、乳用牛の特性に優れ、ムダのないデイリーキャラクターの出品牛が多くみられました。経産牛にとって乳器は大きな要素であり配点も大きいため、乳房の付着が強く、よく発達し長年にわたり高い産乳能力をしめすものが上位に位置することは当然なことだと思われまます。

全体を通して、未經産牛は品の良さ、月齢に対しての肋の開帳・流れ、体全体の長さ、足もとの筋腱の鮮明さ、トップラインとバランスに優れていました。

経産牛については乳器の質、形状等の泌乳能力、乳用性は優れていましたが、後肢の踏み、後腿の薄さ等、これからの改良を期待するものもありました。

全ての区にパワーがみられ、本県の層の厚さ・レベルの高さが伺えたことから、生産者の方々の優れた改良技術、熱意に敬意を表しますとともに、今回は第5回九州連合ホルスタイン共進会の予選会ということで各部の上位3頭づつと昨年のグランドチャンピオンの計16頭の出品が決定され、今後の飼養管理にも万全を期し、さらなるアピールをして頂くことを祈念して本共進会の講評と致します。